

第25号
平成22年8月4日
発行
「市民活動情報紙
なると」編集委員会

市民活動 情報紙なると

鳴門市ボランティア
連絡協議会
☎685-7170
鳴門市市民活動
支援センター
☎685-7170



木津神地区ふれあい運動場の接待所

鳴門市内一円で7月25日まで「ハマボウ祭り」が開催されました。木津神地区ふれあい運動場の接待所ではそうめんがふるまわれ、訪れた方々は笑顔でお接待を受けていました。



今年も暑さ厳しいですね

ふれあい福祉の会 山びこへるぶ
理事長 酒井 やよい

ゆらゆらと熱気が漂うアスファルトの上を、今年の夏もほとんど毎日のように車を走らせています。活動の現場へと。

「田んぼの中の麦わら帽子と汗をぬぐう動作」を見るたびに、忘れかけていた12年前の夏の一日がよみがえってきます。「山びこへるぶ」の立ち上げ準備会をしていた日のこと。窓の遠くには、スローモーションの映像のようにゆっくりゆれる大きな木の枝葉が印象的だったことを、いつまでも覚えています。

この12年間、あっという間の出来事のようにも感じられます。たくさんの人との喜びの出会いや、活動を共有できる仲間が何よりの財産となりました。そんな中でも、とても長い時間をかけても心にとげが刺さったままの事例もあります。未熟さゆえの出来事だったとしても、忘れられません。

「へき地となりゆく島の暮らしのお手伝い」がお互いさまの感覚で、地域の中でさりげなく助け合える支援はできないだろうかと思った、私たちの活動。あの頃を振り返ると、すこし生意気だった自分も垣間見ることができそうですが、ただ夢中で走り続けていたように思われます。

現在もなお福祉系 NPO として「山びこへるぶ」は、変わりゆく法制度の中で、公的サービスとして訪問介護・通所介護・居宅介護支援等の事業の展開はしていますが、常に「山びこへるぶ」の立ち位置はふれあいボランティア・

ふれあいサービスであること。「新しいふれあい社会の創造」の理念のもと、昨年のふれあいの活動時間は4000時間、利用者数は160名を超えるまでになりました。そして、事業が広がっていくにつれて、問題点も大きな視野で取り組む課題も、はっきりと感じ始めています。

そのひとつには、公的サービスを担う行政と、地域でのインフォーマルなサービスの逆転の発想です。今の地域福祉の現状では、公的支援のできない部分をインフォーマルな活動で補っていく進め方。しかし、本当に豊かな地域社会を考えたとき、お隣さんどうしてだれよりも早く気づくところで自然に助け合っていく事ができるということ、またできるような働きかけも少しして、地域力を高めていく。その地域の中での助け合い活動で足りないところを公的サービスが担う。そんな発想が地域の中で活かせる時期が、もうすぐそこまで来ている、そう、日々の活動の中で実感することが多くなってきました。

人が生きていくうえで、そんなにたくさんのものはいらぬ、と私はよく思います。周りにいる人とのささやかな時間を大切に、「ありがとう」という感謝の思いが広がり、当たり前のように助け合い活動が根付いて温かな地域へと続いていく。私たちの活動が何かのきっかけになれるなら、とてもうれしく思います。



バリアフリー活動のあゆみ

NPO 法人「ふくろうの森」 野村 幸子

私たちの活動は、「図書館活動ボランティア」と、市からの委託を受け、鳴門市立図書館業務の一部支援を行う「受託業務」の2つに分かれています。今回は、図書館活動ボランティア8つの活動の中から、活動6年目を迎えたバリアフリー活動を紹介したいと思います。

バリアフリー活動は、平成16年11月の「世界のバリアフリー絵本展」を市立図書館で開催したことからスタートしました。この展示で障がいの有無に関わらず、共に楽しめる絵本があることを初めて知ったことをきっかけに、実際に自分も作ってみたいという声上がり、翌年、「さわる絵本製作講習会」(全6回)へとつながっていきま



盲学校の依頼を受けた教材のカレンダーが完成

さわる絵本は、布絵本と違い、実物に近い手触りの素材で作られ、平面的な布絵本よりも厚みがあり、さわって立体を感じられるため、視覚障がいの有無に関わらず、一緒に楽しめる絵本です。この講習会で、参加者が協力して制作した2冊のさわる絵本は、県立盲学校と市立図書館へ寄贈され、大変喜ばれました。

このことをきっかけに参加者有志によりさわる絵本の会を発足し、その後、正式名称をさわる絵本の会「ふわふわ」としました。これまでにさわる絵本6冊と盲学校から依頼された教材の制作を行いました。現在、メンバーは9名でいつも和気あいあいの雰囲気の中で、アイデアを出し合い、ささやかながら、社会に貢献できる喜びを感じつつ頑張っています。活動に興味のある方は、ぜひ一度見学にお越しください。

さわる絵本の会「ふわふわ」のほか、バリアフリー活動では、これまで点訳講習会を開いたり、昨年度からは初心者向けの手話講習会「手話ではなそう」(全10回)を行っています。途中参加できますので、興味のある方はお気軽にお越しください。

ついこの間、活動を始めたと思ったバリアフリー活動ももう6年目。今後も地道に一步一步前へ進んでいきたいと思っています。

行事のお知らせ

「手話ではなそう」

日時 9月12日、26日
 10月10日、24日
 11月14日、28日

時間 13:30~14:30

場所 鳴門市立図書館2階視聴覚室

対象 小学生以上

資料代 100円



会員募集

さわる絵本の会「ふわふわ」制作会

活動日 毎月第1・3火曜日
 13:30~15:30
 (都合により変更あり)

場所 鳴門市立図書館2階視聴覚室

問い合わせ先 「ふくろうの森」
 TEL/FAX 685-0389



『情報の発信と共有が大切』

中央地区自治振興会会長 大野 繁明

地区自治振興会は各自治会の集まりの中から形成された団体でありますから、地域の活動には「情報の発信」が大変重要な事だと考えております。その情報を地域の方々に共有して頂く事が、又重要と思えます。各自治会の活動は地域の安全・防災や福祉の要であり、各自治会の活発化をより促進させる為に新しい地域づくり支援活性化事業の活用を計画して行く事を予定しております。当然自治会の自主的活動への支援を強化して安全で住みよい地域づくりを目指し、予測される地震への防災にも役立てたいものであります。

情報の発信は三つの方法を利用しています。一つには毎年一回発行する「中央地区だより」であります。去年は No.41号になりますが、43の自治会の全世帯に配布しております。記載内容は地区で活動する自治振興会・社会福祉協議会・自主防災会・人権教育推進協議会の一年間の活動報告・会計報告などの総会資料の掲載を始め、各会の役員名簿、民生委員名簿、町内会の会長又は世話人一覧表など地域の方々に情報の提供をしております。全域を対象とする資源ゴミ回収の特別会計も地域の方々の御協力の成果を報告しております。

一部の役員のみで運営されるとややもすると地域の方々の無関心を一層強めてしまうと考えており、地域の方々からの会費や後援会費や募金がどう使用されているかは、地域の全世帯の方に報告する義務があると考えております。



中央地区で配布している「中央地区だより」

二つには中央地区自治振興会として「コミュニティネットワーク『中央』」を平成12年に設立し、地域で何かが起っても皆で知恵を出し合って、対応できる地域活動が大変重要だと考えております。地域の問題点の情報を知ることが重要と思い、各日曜日に、南浜集会所を拠点として実施しております。

三つには中央地区では回覧板の促進を積極的に採用しております。地域の環境美化を始め各種行事への参加を呼び掛けております。この効果は各自治会の活動にも一役買っているものと考え頻りに実施していますが、隣の人と顔を合わせ、何かが繋がっていただけでも意義があると考えています。156軒で15班の自治会では回覧が速く連絡も速いのに感心させられています。

地域への情報の発信と情報の共有は人と人の繋がりを期待し、今後の地域活動により生かされる事を自信を持って日々の活動に励んで参りたいと思えます。

活動紹介

NPO法人あかり

住所 瀬戸町堂浦字地廻り巻26-5
連絡 ☎088-688-2248
内容 地域のお年寄りを対象にした通所介護事業をスタートさせました。
あかりデイサービス瀬戸

コミュニティビジネス創業セミナーを開催します

日程 8月19日(木)・8月26日(木)
9月2日(木)・9月9日(木)
9月23日(木)
時間 13:00~16:00
場所 (財)鳴門地域地場産業振興センター2階 第2会議室
定員 15名(5回のセミナーを全て受講可能な方)
受講料 無料 ☎689-3270

徳島県筆記通訳者協会 鳴門支部めだか サークル紹介

徳島県筆記通訳者協会
鳴門市部めだか代表者 林 明美

『徳島県筆記通訳者協会 鳴門支部めだか』を紹介し、が、ちょっと名前が長い？ので以降『めだかサークル』と呼びます。私たちめだかサークルは平成4年3月、8名で鳴門に初めて要約筆記サークルを立ち上げました。あれから18年、メンバーは相変わらず少人数ですが、毎年頑張っって様々なイベントに参加させて頂いております。といっても皆さん！筆記通訳（要約筆記）ってご存知ですか？とても残念なことですが、あまり知られていないのが現状です。

筆記通訳（要約筆記）とは主として、手話を知らないまたは手話を使わない、中途失聴・難聴者を中心とする聴覚障害者の要求に応える形で昭和40年代に誕生し、発展してきた情報保障の方法です。話し言葉を文字で書いて表すため、手話だけでは十分な情報を得ることのできない聴覚障害者のみならず、高齢化社会においては、加齢により聞こえが十分でなくなった人たちにとっても、社会参加を保障し生活の質を高める上でとても有効な方法です。要約筆記の方法として OHP（オーバーヘッド・プロジェクタ）、OHC、PC（パソコン要約筆記）、ノートテイク、ホワイトボードなどがありそれぞれの用途によって使い分けます。

活動内容としては、10月に4週連続で行われている人権セミナー、鳴門市障害者スポーツ・レクリエーション大会、子どものまちフェスティバル、うずしお福祉フェスティバル、徳島県ボランティア・NPO 研究大会、など様々なイベントに参加させて頂いたり、鳴V協環境美化清掃活動の協力や要約筆記技術の向上、メンバーの親睦・情報収集のためのサークル例会・勉強会、筆記通訳者協会勉強会などを積極的に行っています。

※徳島県筆記通訳者協会とは県内（徳島、鳴門、板野、上板）のサークルを一本化したものです。

最近の活動として『なると De シネマ』での吉永小百合さんビデオレターや上映前の挨拶をパソコン要約させて頂き、地域に密着した活動に向け頑張っております。また7・8月現在、徳島県・徳島県筆記通訳者協会主催で要約筆記奉仕員養成講座（基礎課程）を開催し、スタッフ養成を目標に活動しております。興味のある方、10/2・9・16・23の人権セミナーに是非来てみませんか！お待ちしております。



要約筆記奉仕員養成講座風景

募 集



子どもたちの「こころを育む活動」全国大賞

◇応募できる活動

団体または個人が行う子どもたちの「こころを育む活動」で下記「3つの工夫」のいずれかが認められること

- 「進める工夫」 活動の対象が明確で勤め方における工夫・努力がある
- 「広げる工夫」 ネットワークを作り、活動を広げるための工夫・努力がある
- 「続ける工夫」 続ける活動を継続するための仕組み・工夫がある

◇支援対象

未来を担う子どもたちの「こころを育む活動」に献身、努力されている活動

◇支援金額

全国大賞 賞金100万円
ブロック大賞 賞金30万円、等

◇締切り日

平成22年9月30日（当日消印有効）

◇問い合わせ先

（財）パナソニック教育財団内「こころを育む総合フォーラム全国運動事務局」

☎03-5521-6100